

ピアノ調律師より

# オトノトビヨ

音の扉

vol.5

巻頭  
特集

## ピアノと電子ピアノの違い

特別寄稿

ピリオド楽器によるショパンコンクール

KAJIMOTO プロジェクト・アドバイザー / NIFC 東アジアプロジェクト・アーティスティック・アドバイザー

佐藤正治

2 **巻頭  
特集** ピアノと電子ピアノの違い

4 **調律師の仕事**

特別寄稿

8 **ピリオド楽器によるショパンコンクール**

KAJIMOTO プロジェクト・アドバイザー／NIFC 東アジアプロジェクト・アーティスティック・アドバイザー  
佐藤正治

10 **歴史的ピアノ探訪その4**

日本ピアノ調律師協会／中部支部 伊東基貴

13 **ちょい住み in ワルシャワ日記**

日本ピアノ調律師協会／関東支部 小笠原 萌子

18 **調律師が読む本『グレン・グールドのピアノ』**

ケイティ・ハフナー 著／鈴木圭介 訳／筑摩書房 発行  
日本ピアノ調律師協会／九州支部 足立修治

ピアノのはなし その4

20 **ピアノのお手入れについて**



本誌及びバックナンバーは（一社）日本ピアノ調律師協会のホームページからご覧いただけます。

日本ピアノ調律師協会

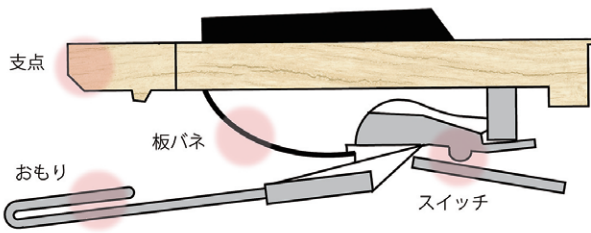
検索

スマホの場合は  
右記のコードを  
読み取ってくだ  
さい。





ありませんし、響板もありませんから(※)、同じ鍵盤楽器であっても打弦楽器であるピアノとは全く違った楽器と言えるかもしれません。



電子ピアノのアクション

電子ピアノは、比較的安価で購入できま  
すし、ピアノのように調律がいりません  
から維持費がほとんどかかりません。設置ス  
ペースは、鍵盤  
の数がピアノと  
同じ88鍵ですの  
で、アツプライ  
トピアノと比べ  
るとそれほど違  
いはありません  
が、高さが低く  
重量が軽いため  
家の中での移動  
も可能でしょ  
う。ヘッドホン  
を使用すれば夜  
でも弾くことが  
できます。

しかし、最近ピアノの先生方からよくお聞きすることは、電子ピアノで練習している子供さんの中に、家では弾けても先生のお宅のピアノでは上手く弾けない。普段アクションを動かして音を出していないので、タッチ感をうまく伝えられず、小さな音でしか弾けない子供さんが多いとのこと。電子ピアノは、ピアノが弾ける方にはとても良い楽器だと思えますが、これからピアノを習う子供さんや、今習っている子供さんにはアコースティックピアノをお勧めしたいですね。

\*1 アコースティック・電氣を使用しない楽器を用いた演奏のこと。

\*2 一部機種にはスピーカーとして響板を採用しているものがあります。

|     | ピアノ                                                          | 電子ピアノ                                                        |
|-----|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 特徴  | 弦の共鳴作用や倍音による自然で豊かな響き、ハーモニーがあり、生の音を楽しめる。                      | 軽量、コンパクトで調律の必要がなく、音量の調節ができる。機種によっては様々な音色が出せたり、本体に録音できるものもある。 |
| 発音  | 打弦機構によりハンマーが弦を打ち、その振動が響板へと広がる。楽器全体が共鳴体。                      | 鍵盤の動きをセンサーが感知し、デジタル録音されたピアノの音を増幅してスピーカーから発音。                 |
| タッチ | 精密な部品からなるアクションと呼ばれる打弦機構が指先の微妙な動きをハンマーに伝える。アクションを動かす重さを指に感じる。 | アクションがないため鍵盤の下や奥に色々な仕組みを作り、タッチに抵抗感を加えている。                    |
| 音色  | 弾いていない弦も共鳴し複雑な効果をもたらすため、弾き方によって音色、音質が変化し表現力を豊かにする。           | 録音した音源を使用しデジタル技術で再現。ピアノに似た音色を得られる。ピアノ以外の様々な楽器の音を搭載した機種もある。   |
| 表現力 | タッチの強弱によって音量だけでなく、音色が変化することで豊かな表現力を生んでいる。                    | ピアノの響きを録音し、ピアノの表現力に近づけている。                                   |

# 調律師の仕事

現在、市場に出回っているピアノのほとんどが、木材・皮・フェルトなどの天然素材と、技術革新による新素材を組み合わせたアクションが使われています。天然素材は、温度や湿度による影響を受け易く、使用頻度に比例し消耗・磨耗したりする事で、徐々に本来の性能を発揮できなくなります。例えば皮が摩擦すると摩擦抵抗が変化しタッチ感が変わります。フェルトやクロスは湿度で膨張しスムーズな動きの妨げになります。また温度、湿度のわずかな変化はピアノのケースと響板に影響を及ぼし音の狂いを引き起こします。

ピアノのメカニズムはデリケートで複雑です。特に弦には1本平均約90kgという強い力がかかっています。そのため、時間が経つにつれて次第に弦が緩み、音が乱れて

いきます。常にベストコンディションのピアノと向き合うには、年に1〜2回の定期的な調律とメンテナンスが必要です。

多くの人が持つ調律師に対するイメージは「音程を正しく合わせる人」かもしれませんが。しかし、その作業内容は実に多岐にわたります。ピアノは調律師が実施する色々な作業によって維持されています。一般的に調律師の実施する作業についてご紹介していきます。

## ピアノのチェック (清掃、磨き)

調律をメンテナンスと考えれば、その前にしなければいけないことが沢山あります。内部のホコリを取り除き、汚れや金属部分



鍵盤を外し、内部のホコリや汚れ、サビを取り除くところから作業が始まる(写真はきれいに掃除されたあとのピアノ)

のサビ取りや磨きを行います。ホコリは精密なアクションに入り込み機能を低下させ、虫食いやカビ等の発生につながる場合がありますので、防虫剤や除湿剤を入れること

もありません。

鍵盤の下のピンを磨くことで動きをスムーズにし、弾き心地がよくなり、発音も良くなります。鍵盤は弾き手との唯一の接点ですからこのチェックはとても大事です。



「ピアノのチェック」の様子を  
youtubeで公開中です  
<https://youtube.czawarplyk>

## 修理

ピアノは故障が少ない楽器ですが、湿気による影響はよく受けます。湿度が高い状態が続くと鍵盤が下がったままになったり、スムーズな動きが得られなかったりしますが、このような時には部品交換をしたりアクションの回転部分のピンとクロスの間潤滑剤を注したりします。

大規模な修理には設備が必要ですが、部品の交換や切れてしまった弦の張替え等の修理は調律師の仕事です。早期に傷んだ部品を交換する事は、連動する他の部品への悪影響を防ぐ事に繋がります。

## 整調

ピアノの鍵盤を弾いてから音が出るまでの機構は、ペダルを含めと



鍵盤が沈む深さを定規を使って揃えている。鍵盤の下に入っている薄い紙を出し入れして0.01ミリ単位の調整をする

ても複雑です。タッチや演奏に影響を与えないよう部品の動きを正しい状態に調整します。より良い音・タッチ(コントロール)を揃えるためには整調は欠かせません。アクションは約5500個の部品からできていて作動しますが、それぞれの動きに非常に細かい調整を施します。

鍵盤の高さ、深さは0.1ミリ以下の調整になりますし、アクションの動きの調整は



湿度により動きが悪くなったフレンジという部品の細かいピンを交換



ハンマーを押し上げるジャックの高さを揃える。指先の感覚で紙一重の調整を行う

1ミリより細かい調整の組み合わせです。

一般家庭ではピアノの整調の乱れに対する部分的な修正を実施しますが、音楽ホール等でのピアノ保守点検の場合にはしっかりと時間をかけた整調が必要です。

もし自分のピアノのタッチ感がしつくりこなかったり、お望みのタッチ感が得られない場合は、一度調律師に相談されると良いでしょう。

## 調律

文字通り「音律を正しく調整」します。ピアノは常時約20トンにも及ぶ弦張力が掛かり、それに加えて温度・湿度の影響を受け、時間と共に音程が変化します。ピアノが本来持つ美しい響きと感動は、正しく調律された音程とハーモニーから生まれます。

ピアノの調律には絶対音感が必要と思われている方も多いですが、実は絶対音感が必要ありません。基準となる音の高さを音叉かチューナーで取ったら、その音に対して次の音を合わせていきます。つまりすべて相対的なのです。

現代のピアノはほとんど平均律で調律をしますが、そのために他の楽器ではしないわざと少しずらして音程を作るといふ微妙な調整が必要となります。この絶妙な感覚が訓練と感性を磨いた調律師の仕事です。その結果、ピアノは奥深い響きを生み出すことができるのです。

実際の作業としては、チューニングハン

マーで弦が巻かれたチューニングピンを回して音程を調節します。鍵盤の数は88鍵ですが、ひとつの音に2本、3本と弦が張られていますので合わせる音の数は220から230にもなります。時間がかかり、集中力と忍耐力が必要です。

ピアノの狂いが気候に左右される事を考えると季節毎の調律が理想です。しかし一般的には年1〜2回の調律をお奨めいたします。音楽大学などで使用頻度の高いピアノはメーカーを問わず年間に何回も調律を実施しています。普段よく使用しているピアノはもちろん、たとえ使っていないでも調律は必要なのです。

## 整音

発音・音色を揃える作業です。弦を叩くハンマーフェルトは、使用頻度や湿度等により変化が出るため、ハンマーの状態を均一にし全体の音のバランスを整えます。通常の作業はハンマーの硬い部分に針を刺し



ピッカーリング。ハンマーフェルトに針を刺して全体の硬さのバランスを取ることで音色を揃える。音の芯、輪郭、伸びを整える重要な作業



ファイリング。ハンマーの表面を削ることで形状を整え、弦に均一に当たるようにする

フェルトの硬さのバランスを取り、弾かれたことで変形したフェルトをサンドペーパーで削って形を整えます。ハンマーフェルトに弾力を持たせることにより、伸びのある豊かな音色を得ることが出来ます。整音作業は定期的に実施したい作業の一つです。このように、調律師の実施する作業には

優れた感性に頼る部分が多くあります。一般社団法人日本ピアノ調律師協会では、全国各地で研修会や講演会を開き、会員の技術研鑽に力を入れています。大切なピアノを良い状態で維持するためにも、ピアノ調律師は信頼のおける調律師にお願いしましょう。

※この記事は「ショパン2022年9月号」掲載記事より一部抜粋して再掲載したものです。



貴重なアンティークピアノの写真を解説付きで掲載。  
美しいピアノと共に過ごす12ヶ月はいかがですか？

日本ピアノ調律師協会 オリジナル

## アンティークピアノ カレンダー

**JPTA2023 CALENDER**

・269×190mm カラー 全26頁(裏表紙のみ 269×220mm)  
・コイル止め 価格1部 **1,200円(税別)**

**10月中旬よりAmazonにて販売予定**

「JPTA2023カレンダー」で検索してください。

★協会ホームページからもお申し込みいただけます。



特別寄稿

# ピリオド楽器による シヨパンコンクール



フォルテピアノ プレイエル (1830年製) 浜松市楽器博物館所蔵

長い伝統と格式を持つ、そして多くのピアニストのキャリア形成に影響を及ぼしてきたワルシャワのシヨパンコンクール。

その運営団体である国立シヨパン研究所(NIFC)から「ピリオド楽器を使ったシヨパンコンクール」の話聞いたのは2010年代の前半でした。

NIFCの芸術監督スタニスワフ・レシチンスキは2005年夏に国際音楽祭「シヨパンと彼のヨーロッパ」をワルシャワでスタートし、毎年ピリオド楽器の演奏団体を招待しています。フランス・ブリュッヘンと18世紀オーケストラはレジデント・オーケストラとしてシヨパンの時代のピリオド楽器との共演を重ねています。

一方レシチンスキはピアニスト達の協力を得て、ピリオド楽器によるシヨパン演奏を録音し、2010年シヨパンのピアノ作品全曲をピリオド楽器の演奏で収めた「The Real Chopin」というCDボックス(21枚組)を完成させました。これが本物のシヨパンだ、と言いたいのでしょう。

ワルシャワでレシチンスキに会うたびにピリオド楽器で録音されたCDを受け取っていたのですが、ある時ピリオド楽器を使ったシヨパンコンクールを2018年から始める、そして従来のコンクールと同様5年毎に継続する、という話を聞いて驚きました。モダンのピアノコンクールが2020

KAJIMOTO プロジェクト・アドバイザー  
NIFC 東アジアプロジェクト・アーティストック・アドバイザー

佐藤正治

(2021) ↓ 2025 ↓ 2030年、そしてピリオド楽器コンクールが2018 ↓ 2023 ↓ 2028年と交互に開催されるわけです。

ショパンコンクールとピリオド楽器コンクールとがNIFCのレシチンスキ配下の同じチームによって運営され、会場も同じ、審査員の一部も重複している、本選会の協奏曲も第1番か第2番から選ばれます。つまり楽器だけが違う二つのショパンコンクールを同じNIFCが運営しているわけです。

ショパンが自ら弾き自ら聴いたピリオド楽器の響きを、ショパンが知り得なかった現代のピアノの響きと同じ重要度に位置付けたいというのがNIFCの狙いではないかと想像します。

私はNIFCのアーティスティック・アドバイザーの一員として2018年の「第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール」の広報協力に関わり、現地のコンクールも見学しました。興味深かったのは

NIFCが所有している自慢のピリオド楽器(約10台)に加えてコンクールのために外部からもレンタルしたことです。エドウィン・ブランク(ポインク、ベウンクの表記例もあります)、ポール・マクナルティ、クリス・マーネのコレクションから提供された楽器はいずれも素晴らしく、6人のファイナリストが選んだ楽器は全てレンタルされたものでした。この6人のピアニスト達は偶然NIFC所有の楽器を誰も選ばなかったのですが、それを寛大に受け入れたNIFCの姿勢を評価したいと思います。

このコンクールで1位と2位を受賞したトマシュ・リッテルと川口成彦は2023年10月に開催される「第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール」の広報に協力し、東京で6月の記者会見やレクチャー&プレゼンテーション&コンサートに出演します。またこの二人に2010年のショパンコンクール優勝のユリアンナ・アヴデーワを加えた3人のピアニストが「第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール」のフ

ァイナルに出演した18世紀オーケストラと共に2024年3月に来日し、東京、関西、九州でショパンがピアノと管弦楽のために作曲した6つの作品をピリオド楽器で演奏します。コロナのために来日時期が延びてしまいました。

日本におけるピリオド楽器の課題は楽器へのアクセスが困難であるという点だと思っています。ホールに備品としてあるケースはまれですね。個人が所有する楽器は基本的に本人だけが使用しますし、大学や博物館や資料館で学生が自由に試演できる環境も揃っていないと思います。

200年以上前のオリジナル楽器の数には限界がありますが、優れた楽器のレプリカがある程度増えてくると、ピリオド楽器との出会いが改善されると思います。

いつかショパンを弾こうとしているピアニストに「ピアノはどれにしますか? モダン楽器ですか? それともピリオド楽器ですか?」と質問される時代が来るのを夢見ておられます。

# 歴史的ピアノ探訪 4

伊東基貴  
（日本ピアノ調律師協会／中部支部）



ベヒシュタイン

東京の皇居にほど近い地下鉄竹橋駅から徒歩3分の場所に、如水会館という一橋大学同窓会（一般社団法人如水会）の運営による建物があります。そこに、1923年製ベヒシュタインE型（コードNo.49377）ピアノが、今も現役備品として所蔵されています。

このピアノは、国立市の一橋大学キャンパス内に建築された兼松講堂にありました。もとは東京音楽学校（現、東京藝術大学）の備品を、国立大学の系列ということにより保管移転されたようですが、時期は明らかではありません。その後一橋大学の備品として使用されました。

そして、時は太平洋戦争の末期、1944年（昭和19年）に前年から始まった学徒出陣により、一橋大学学生による出征学徒壮行会が兼松講堂で行われました。

世相は「億玉砕」と言われていた中、演壇に立たれた一橋大学のある教授は「諸君、どうか死なないでくれ」という力強い第一声に続き「戦争に勝つても負けても、国家が直ちに必要とするのは諸君たちなのだ」とむすび、戦争の無常感を訴えたそうです。この壮行会で会場のベヒシュタインを演奏したのが、日本人ピアニストとして、はじめてシヨパン国際コンクールにも出場した原智恵子



(1914～2001)でした(「橋大学広報誌」H20 vol.3春号「記憶の中の兼松講堂」参照)。

彼女は13歳で単身パリに渡り、ラザール・レヴィ、コルトー、ルービンシュタインなどに師事、コンセールヴァトワール(パリ



音楽院)を首席で卒業後ピアニストとして着実に歩みはじめた矢先、戦争のため帰国を余儀なくされました。演奏の後「本日は思いもよらぬ素晴らしい会にお招きいただき感激しております。ただいまは戦(いくさ)に向かう若者の情熱を讀えたシヨパ



ベヒシュタインを説明するベヒシュタイン・ジャパンの加藤正人さん

ンのポロネーズを演奏いたしました。行く日があれば必ず帰る日もあるはずです。ご凱旋のときにはぜひともまたお招きをいただきたい。みなさま、おすこやかに：」と涙ながらに挨拶したそうです。

思えば、シヨパンも19世紀にロシアによるポーランドへの軍事侵攻で、望郷の思いをもちながら、ついに故国に帰れぬまま客死してしまつたのです。ひとたび有事になれば、「音楽に国境はない」とはいつていられなくなりませう。それは、今年の2月に始まつたロシアによるウクライナへの侵攻が、文化や経済を壊滅的にしてしまふことを現実にテレビやネット映像で目の当たりにしました。



如水会館の正面玄関



如水会館の内部

さて、このベヒシュタインは、その後も国立市の一橋大学に所蔵されていましたが、卒業生有志の尽力で20年前に老朽化の修復がなされます。ユーロピアノ（現、ベヒシュタイン・ジャパン）加藤正人さんの率いるチームが携わり、オーバーホールによってチ

ューニングピンのピン板交換から塗装にいたるまで細部にわたり仕上げがなされました。その後、場所を現在の如水会館に移して所蔵されています。

ピアノには、いろいろな歴史とそこに込められた背景があり、折々に窺えるのではないかと思います。如水会館のベヒシュタインを取材すると、どうしても原智恵子のことが印象に残ります。戦後はイタリヤを拠点に、チェリストの巨匠ガスパール・カサドとのデュオ・カサドとして、世界的に演奏活動を展開しています。クラシック音楽の放つ普遍性を信じ、強い意志による活動だったのでないでしょうか。そんな日本人女性ピアニストがいたことを、今回再認識することになりました。

※「原智恵子」寺崎太二郎著 冬花社及び「原智恵子 伝説のピアニスト」石川康子著 ベストセラーズを参考にしました。



彼女が、第3回のショパン国際ピアノコンクール(1937年)に22歳で出場し、「聴衆特別賞」を受賞した演奏風景の記録写真。(© 2002 COLOMBIA MUSIC ENTERTAINMENT CO.LTD.)

# ちょい住みinワルシャワ日記

日本ピアノ調律師協会／関東支部 小笠原 萌子

9月14日(水)朝6時15分ウィルツア通り22のアパートのキッチンカウンターでこれを書いていきます。午後2時過ぎにはワルシャワシヨパン空港に向かい、成田に向かつて長い長い帰路につきます。予定移動時間約18時間(下)ハで乗り換え2時間(含)ウクライナ情勢悪化で、北回りのフライトがなくなっていた上に、オイル価格高騰で、航空券も値上がりです。ここでの最後の朝ごはんは、小ネギたっぷりのかけ蕎麦にしました。冷蔵庫をさらい、残り物で丸パンサンドイッチを作り、道中のスナックとします。昨夜はワルシャワで最後の晚餐という事で、奮発?して美味しいものを外で食べるつもりでしたが、結局角のイタリアンレストランから、ハムとピスタチオ、バジルたっぷりのモチモチピザをテイクアウト

し、45ズロチ(1ズロチ30円で換算)つまり1350円で3人の晩御飯が済みました。勿論ビールは別。残り物の白ワインもありましたし、オウチご飯は寛げます。のっけから食べ物の話で失礼しました。



日本から持参の蕎麦

何故ワルシャワに居るかというところ、Europiano Congress 2022&22nd IAPBT Convention Warsaw 9/2~9/4に参加の為にです。

(IAPBT<sup>45</sup> International Association of Piano Builders and Techniciansの略)

これは調律師の世界大会というべきイ

ベントで、2年に1度、この集まりに賛同している団体が輪番で主催者となり、世界のどこかで開かれるものです。コロナで1年延期となりましたが、今回はユーロピアノがポーランドピアノ調律師協会と協力して、初のワルシャワでの開催となりました。

前回は2019年に浜松で開催され、20年ぶりの日本開催で、(一社)日本ピアノ調律師協会も、数年前から計画準備し、およそ800名の国内外の参加を得て、大盛会となりました。IAPBTが目指すところは、技術交流と同業者同士の親交を深めることです。各種のセミナーの開催や、関連商品の展示会、コンサート、宴会等があります。そして忘れてならないのは、加盟団体のPTG(アメリカ)、APTTA(オーストラリア)、JPTA(日本)、KPTA(韓国)、

TPTA(台湾)、CPTA(中国)、そしてユーロピアノで理事会を開き、IAPBTの運営について話し合いを持つことです。実は南アフリカも登録がありますが、ここ数年レスポンスがなく、後1年の猶予と最後通達を以て除名になることが、今回のIAPBT理事会で承認されました。又総会ではシンポジウムが行われ、開催国で決められたテーマについて、各団体の会長もしくは代表がスピーチをします。今回のテーマは「ピアノ昨日・今日・明日」です。ここで何故各国という言葉を使わないか、その理由に触れておきます。所謂2つの中国の問題が背景にあります。台湾は早くからアメリカ、日本に賛同して、IAPBTに加盟しています。しかし大国中国としては、微妙なところです。IAPBTの定款に政治を持ち込まない。という約束があり、それ故各国という表現は使わずに各団体という表現が使われているのです。会議は基本英語が共通言語として使用されますが、完全な同時通訳を導入するには費用が掛か

り、通訳を各団体随行するも、なかなかコミュニケーションは難しいものがあります。会議は時々迷走します。それでもなんとかしてしまおうと、ご愛嬌ということにしておきましょう。日本の若い調律師の方には英語力を高めて欲しいと、切に思います。ただ、外国語が流暢であるより、もっと大切なことがあります。それは偏見を持たずに異なる文化、バックグラウンドを持つ者と、恐れず交流しようとする意思です。さて文化論はこのくらいにして、今回私が体験しなかった、ちよい住みについて、お話ししましょう。

昨年第18回ショパン国際ピアノコンクールに、月刊ショパンのご依頼でコンクールの公式ピアノメーカーと、担当調律師を直撃インタビューさせて頂く幸運に恵まれました。直撃というには訳があります。事前にメールでインタビューをお願いしてはいましたが、お話を伺いたい本人には、会場で約束を取り付けたからです。

彼らは、ファイナルに近づくと、本当

に忙しくなり、事前にいついつ、などと言う約束は出来ません。そこが最もハラハラしたところで、10分前に私のスマホに「今なら時間あるよ」とメッセージが来て、走って舞台裏に駆けつけた事もありました。そんなこんなで、戸惑う事ばかりでしたが、とても良い経験をさせて頂きました。ハイレベルなコンクールに魅了され、同時にワルシャワという街が一層好きになりました。

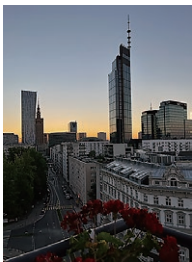
今回ワルシャワでの世界大会ということで、再訪の希望は強いものがありました。が、コロナ情勢に加えて、ロシアのウクライナ侵攻で、実際行けるのか、同行者が居てくれるのか、難しいものがありました。大会後はオプシオンで、ドイツのピアノ工場や部品工場見学のバスツアーがあり、魅力満載ですが、それ故滞在日数も長くなるので、参加へのハードルは高かったと思います。それでももし可能なら、ちよい住みスタイルで、2週間は滞在しようと思っておきました。高級ホテルは快適ですし楽ちんです。ただ、世界的チェーンの大ホテルは、

どこでも同じです。それが安心材料であることも認めますが、今回は「民泊で行く！」を決めてから、私の旅は始まりました。まず Airbnb のアプリをインストールして、ワルシャワの街の地図と睨めっこしながら、場所、価格、特徴を洗い出し、これらと思う物件（アパート）を、リストアップしていきます。これが、物凄く楽しいんです。そして、そこに滞在した人のレビューを読む。夢のちよい住みの為に、選択を間違えてはいけません。

前半の5泊とドイツから帰った後の6泊。2件のアパートをチョイス。空いているかどうかカレンダーで確認。申し込むとお振込案内がメールで来ます。全額一括で払わずに、半額振込を選択。案の定、宿泊日数を間違えていたり、一緒にお泊りの希望者が増えて、残金振込時に最終金額を修正して払うことができました。因みに予算は1泊1万円以下。2人なら5千円だし、ルームメイトが増えれば更にオトクになります。あとは、Google マップで見ながら、タ

クシーでその場所へ行くだけ。48時間前にオーナーから鍵の在る場所や、ゲートのコンビネーションが知らされます。万が一トラブルがあった時、すぐ対応してくれる方かどうかは、事前のメールのやり取りで確認出来ます。こちらからの質問は英語ですが、返事は日本語に変換されてくるので、Google さままでです。唯一不安だったのは、ワルシャワに到着後、空港を出たあとアパートに入るまでの *Meteo* が繋がるかどうか。去年はポーランド対応シムを買っていても、スマホが SIM フリーでなく、自分でロック解除ができませんからです。（幸いホテルとコンクール会場の往復だったので、さほど不自由はありませんでしたが）今回はスマホも新しくなったし、eシムをトライしました。アパートシエアの1人は、SIM カード。もう1人は *Meteo* ルータ持参で3者3択になりました。前半のアパートはアパート裏の手擦りにキーボックスが下げてあり、知らされたコンビネーションで開けて鍵を取り出し、最初の扉と中扉を

チップでタップして解除、エレベーターで11階に上がると、部屋の前に鉄格子がありました。ここは鍵で開け、いよいよドアへ。二つ鍵があり、これまた指示された鍵で開けるも、中々開かず苦戦。日本と回し方が逆？兎に角3人で交代でガチャガチャやって、遂に中へ入ることができました。オーナーには無事入室したことを即メール。間をおかず返信がきます。流石は星5つのスーパーホストです。お部屋は綺麗に整頓されていて、人数分のタオルもあれば、コーヒーマシンとカートリッジも完備されています。勿論洗濯機も完備です。お部屋は2DKで、マスターベッドルームを高木さんに使ってもらい、シングルベッド2台の部屋は、牧子さんと、明日着く千絵さんに。私はリビングのカウチ（ベッドになる）を、専



アパートからの眺め

有すること  
にしました。  
窓からの眺  
めはこんな  
感じですよ。

8月31日。酷暑の日本から脱出して、こ  
こは、快晴でさらさらです。機内もドーハ  
空港も冷蔵庫かと思うほど、空調がキツク  
身体はバリバリになっていましたが、漸く

快適な温湿度の下で過ごすことができそ  
うです。大会は9月2日〜4日ですが、2日  
午後の開会式の前、午前中にシヨパシイン  
ステイチュートで、フォルテピアノの修復  
家・製作家であるポール・マクナルティ氏  
の特別セミナーが別料金であり、申し込みを  
しています。ここから会場へのアクセス、  
それから何よりも大会会場のホテルへの、  
足を確認しておく必要があります。アパー  
トは街の中心部ですが、会場のヒルトンダ  
ブルツリーはビスワ川の反対の郊外です。  
思ったより、距離がありそう。明日千絵さ  
んが到着する前に、公共交通機関で行って  
みよう。ということになり、とりあえず夜  
の街へ繰り出し、スーパード朝食の材料や  
ら買い物して、簡単な夕食をして帰宅。初  
日はボタンキューとなりました。

9月1日。時差ボケで4時には目が覚め

てしまします。日本との時差は7時間なの  
で、午前11時頃。活動のピーク時間になり  
ますし、お腹も空く頃です。

ヒルトンへのアクセスをGoogleマップで、  
ルート確認(オーナーさんにもメールで最  
善の行き方を確認しました)。行きはタク  
シーで、帰りは公共交通機関で移動をして  
みることに決定して、中央駅からタクシー  
に乗り、30分余り。やはり結構速い。タク  
シー130ズロチ!(毎日往復だと、3、4  
人で割っても結構な出費だ!しかも毎朝9  
時前にいかないと、セミナーに間に合わな  
い。やや心配になる)。会場ホテルに泊まっ  
て居れば、これ以上楽なことはないわけ  
ですが、チャレンジです。ロビーに着くと、ド  
イツ経由で到着した、北村さんと、ドイツ  
在住の矢作さんがチェックイン待ちでロビ  
ーに座っておられ、再会を喜び合いました。  
彼らはヤーンのブースに、ヒビキハンマー  
とピッカーを出展されるそうです。そうこ  
うするうち、千絵さんのワルシヤワ到着の  
時間が近づき、慌ててバスの乗り場へ。こ

こからが中々チャレンジでした。ホテルで、  
道の向こうのバス停と聞くも複数あり、分  
からない。Googleに教えを請うと、時刻表  
も番号も出ますが、どっち方向のバス停?

地元の方に聞くもポーランド語で、サツパ  
リ分からず。右往左往すること30分。漸く  
若いお嬢さんの英語に助けられて、バスを  
乗り換えなければならぬ事が判明!耳  
をすませ、読めない表示を見落とさないよ  
う神経を張り巡らせ、バスの乗り換えに成  
功。サツカー場のある大きな乗り換え地点  
で、トラムに乗り換え、無事アパートに帰還。  
千絵さんから、ワルシヤワ着のメールがき  
ていました。彼女は新入会員ですが、エジ  
プトにお住まいだった強者!です。旅慣れ  
ている上に、サブイバル能力最強。頼もし  
いルームメイトが加わりました。会場への  
タクシー使用のコストを心配していた私に、  
「Uberがいいですよ」の一喝。そうだとそれ  
があった!でもアプリいれてない(Uberは、  
所謂白タク。インターネットで最寄りのド  
ライバーが、数分で迎えに来てくれ、目的

日まで予め提示された料金で連れて行ってくれる)。料金は約半分になった。インターネットさまさまである。

航空券手配から、アパート探し、移動手段算段、地元美味しいレストランの検索、その上GPS機能で自分のいる場所が分かるので、言葉が分からなくても何処でも行けるといふ訳だ。2015年のシヨパンコン、アヴデーエフがヤマハで優勝した時も、二次予選を2日だけ鑑賞しに來ましたが、今ほどネットに依存してはいなかったように記憶しています。今回コロナ水際対策のため、日本政府が義務付けたマイSOSアプリのインストールもあり、スマホを使いこなせない世代は、生きていけない世の中か?の思いを強くする。インターネットは人類にとって福音なのだろうか。

9月2日。5時から、王宮の煌びやかな大会議室で開会式、その後、2018年の第1回シヨパン国際ピリオド楽器コンクールの覇者、トマシュ・リツテルの演奏会が華を添えた。前述のマクナルティ氏により

2007年にレプリカとして制作された1819年のGrandを使用。シングルアクションとは思えないほどの迫力ある演奏に引き込まれた。正直この時代の楽器の演奏で、これ程深い感銘を受けたことはなかった。トマシュの力量なのだろうか。中でもバツハの左手の為のシャコンヌは圧巻であった。後半は1858年の修復されたErard(2台ともシヨパンインスティチュートの所有と思われる)。エラールは現代ピアノの幕開け、フェルトの巻かれたハンマーの優しく力強い響きが高い天井に木霊する。このコンサートをこの場所、これらの楽器で聴けたことだけで、遙々旅をして来た事が全て報われたと思う。

ピアノの過去・現在・未来を、紡ぎ出される音に深く感じていた。

明日からの大会スケジュールにワクワクしながら、眠れぬ床に就いた。



ちよい住みの仲間。左から高木さん、私、千絵さん、牧子さん



ポール・マクナルティ氏のセミナー



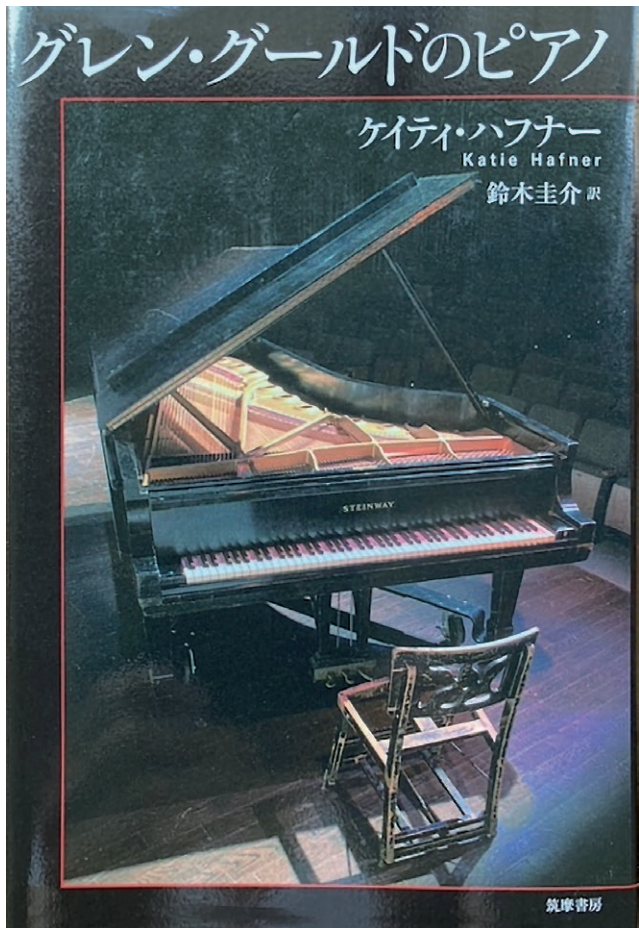
王宮コンサート

調律師が読む本

# 『グレン・グールドのピアノ』

ケイティ・ハフナー 著  
鈴木圭介 訳 筑摩書房 発行

日本ピアノ調律師協会／九州支部 足立 修治



一人の音楽家が使用する楽器にスポットライトを当てた本というのは、そう多くはないのではないのでしょうか。とは言え、一台のピアノについてだけではなく、また、ピアノだけについて書かれているわけでもありません。

一体どういふつもりでこんな方面から調査を入れようと思ったのか：、グレン・グールドという「風変わりな」ピアニスト（音楽家）の真実を知る為にはこれしかないと思いたのでしょうか…。

この本を読んでまず驚かされるのは、このケイティ・ハフナーという著者の取材範囲の広さ、情報の多さです。そして、魅力的な文章表現…。

まず、「…グレン・グールドはヴァーン・

エドクイストの人生に入ってきた。」という書き方をしている部分があるのですが、まるでこの本の中心人物、重きを置いているのはエドクイストであるとも言いたげです。でもそれは半分ぐらいは当たっていて、この本の最初にピアノリストの生い立ちに触れた後、すぐにこのエドクイストという人物の説明へと移ってゆきます。

エドクイストは調律師で、グールドというピアノリストを知るためには最も重要な人物の一人であるのは間違いありません。ただ、彼は普通の人に比べて視力に大変な問題を抱えていて、ピアノに細やかな調整を施そうとするには「メガネの上からさらに度の強い拡大鏡を装着」しなければなりませんでした。先天的なものとありますから、調律師になるまでには並々ならぬ努力を要した事でしょう。そういう人がこのピアノリストと深く関わっていたと知って私は大変驚きました。

調律師は他にも何人が登場します。多少知られた人物もいると思いますが、最後の

ほうには、なんと日本人調律師も登場してきます……

調律の仕事は端的に述べることは優しくないと思うのですが、著者のケイティ・ハフナーは、次のような文章で見事に表現してみせます。

「調律師の腕の見せ所は、数学的な純粋さと音楽的な心地よさの間のバランスをとり、平均的な聴き手がその違いを感知できないところまで追い込むところにある」

「調律は困難で手間のかかる仕事である。ピアノ調律師には不屈の忍耐が必要で、調律が終わるや、楽器はまたすぐに狂い始めるという事実を受け入れて、ときにはそれを予想していなくてはならない」

訳者の方のお力ももちろんあるとは思いますが、まるで調律の仕事を経験した事があるかのような凄く表現だと思います。

また、あるピアノメーカーへと話が及ぶ中で、「ピアノの進歩は、むしろピアノのための作品を書いた人間とともにあったのであって、最終的にその作品を弾くことにな

る人間とともにあったわけではない」というふうに言ってみせます。

このように、読者(調律師、あるいは音楽マニア)が釘付けになってしまうような文章表現や領ける見解が、興味深いエピソードとともに次から次へと出て参ります。

全体としては、ピアノとピアノリストの出会いと別れ、そして、両方の結びつきがいかに大切に尊いかを描いてゆくわけですが、この本の中で掲げたそれぞれの項目における追求内容はたいへん濃く、例えば、ピアノの歴史や録音事情に触れる部分など、それは、一人の音楽家を知るにとどまらない、ピアノ音楽全般を見つめる時の見方、聴き方を変える可能性すらあるかもしれません。



## ピアノのお手入れについて

### ピアノの「湿気」

ピアノに湿気は良くないと、聞かれたことはあると思います。

ピアノにとって良い湿度は50〜60%で、湿度は20℃前後です。この湿度、温度は人にとっても良い環境です。人が過ごす中で気持ちの良い環境がピアノにとっても良い環境なのです。

ピアノはご存じのように木がたくさん使われています。湿気が多いと膨らみますし、乾燥すると縮みます。最近の家屋は外壁、防音断熱材、サッシのペアガラスなど住宅の材質の向上と各部屋でエアコンが使われるので部屋によっては湿度変化が大きく音の変化の傾向があります。

### ピアノの「サビ」

ピアノには様々な所に金属が使われています。

弦、弦が巻かれているピン、鍵盤を支えているピンは鉄。ペダル、鍵の部分は真鍮です。

骨組みになっているフレームは铸铁です。その他に部品を固定するビスや接合部の小さなピンも全て鉄で出来ています。

サビは基本的にピアノにとって害なのでメーカーのロゴ・ペダル・鍵の部分にサビが発生していたら内部の弦、ピンも要注意です。調律の際にチェックをして処理をしてもらいましょう。

### ピアノの「ホコリや汚れ」

グランドピアノは弦の振動を増幅させる響板が平面的なのでホコリがあると音の増幅に影響を及ぼします。アクションの細かな動きにも影響があります。アップライトピアノは響板が立っていますのでグランドピアノ程は影響はありませんが、色んな場所にとまったホコリが湿気を吸うとカビの発生の原因にもなりますし、フェルト、クロス、の虫食いの原因にもなるのでピアノ内部はきれいにしましょう。ピアノの外装もきれいな方が気持ちが良いものです。ピアノ専用のワックスでお手入れをしましょう。塗装部分の汚れは車の水垢取りなどで落とせますが外装の種類によってお手入れ方法が違うので調律師にお尋ねになるのが良いでしょう。



「ピアノのチェック」の様子を  
youtubeで公開中です  
<https://youtu.be/czawarjtk>

# ガトノトビラ 音の扉 vol.5 令和4年11月30日発行

編集・発行 一般社団法人 日本ピアノ調律師協会  
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-18-21 楽器会館 5階  
TEL.03-3255-3897 FAX.03-3255-9246 E-mail. info@jpta.org

表紙デザイン 清水敬祐 総務局参与  
本文編集・イラスト 株式会社 按可社

**編集後記** 今回は最近増えている電子ピアノがアコースティックピアノとどのように違うかを  
取り上げてみました。これからも我々ピアノ調律師から見た身近なものをとらえて  
読者の皆様にお伝えできればと思います。発行にあたり、寄稿いただきました方々、ご協力いた  
いた皆様に御礼を申し上げます。 広報局 古屋嘉彦

# 小さな振動からはじまる 大いなる未来への感動



一般社団法人 日本ピアノ調律師協会

Japan Piano Technicians Association

HP <http://www.jppta.org> Email [info@jppta.org](mailto:info@jppta.org)